



◇ 年頭にあたって

新年明けましておめでとうございます。
皆様方には、ご家族お揃いでよいお年をお迎えのこと
とお慶び申し上げます。

謹賀 新年

昨年末の衆議院解散による総選挙の結果、安倍新政権が誕生。自・公連立内閣の組閣も完了し、危機突破を名に内閣が発足。国民の生活が少しでもよくなることを願ってやみません。

一方伊賀市におきましても昨年 11 月の選挙により新市長に岡本栄氏が初当選されました。改めてお祝いを申し上げます。市長のモットー “伊賀市を本当に誇れるまちに。子どもや孫たちへ、しっかりと引き渡せるまちに。” のもと伊賀市のさらなる発展をご祈念申し上げます。

伊賀市総合計画（平成 27 年まで）に基づく、“自然と調和した安心・安全・元気なまちづくり” を基本理念のもと、壬生野地域まちづくり計画により、取り組みを進めてまいりました。

現在、10 の各部会で、特色ある地域づくりのため、取り組みや活動を行っております。その間多くの皆様方の参加をいただきまして誠にありがとうございました。内容等につきましては、広報みぶのに掲載をいたしておりますのでご意見等いただければ幸いです。

特に平成 24 年度は、地域ステップアップ事業として鳥獣害対策に取り組んでいます。猿害により、壬生野小学校のプールが使用できない現実を一日も早く解決できますよう関係の皆さんと取り組みを進めているところであります。

一方、東海・東南海・南海地震等、予期せぬ災害、事故に対処すべき防災意識の高揚を図る取り組みも進め、地域の皆様方に自助、共助の意識を深めていただき要援護者の方々への支援等の取り組みも進めさせていただきたいと考えております。

市民センターは、地域皆さんの施設です。一人でも多くの方々を足を運んでいただき気楽に会合し、これからの壬生野について楽しく語っていただければ幸いです。

本年も、皆様方の更なる参画をいただき、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。

◇年末・年始の事件・事故防止へ 合同出動式に参加しました。

年末・年始特別警戒取り締まりと年末の交通安全県民運動の実施周知に向け、12 月 10 日（月）17：00 から、上野丸之内の上野西小学校で開催された合同出動式に参加しました。

伊賀警察署長、伊賀市長、市消防本部長、市議会議長のほか伊賀警察署の署員や市職員、交通・防犯のボランティア団体ら約 230 人が参加し実施されました。

期間は、12月11日から特別警戒が来年1月10日までの期間で、県民運動は今月20日までの期間で実施されます。

出動式のあいさつで、伊賀署の山本廣視署長は「管内は犯罪・事故とも大幅に減少しているが、年末は犯罪が増加傾向にある。地域住民の方の協力が必要で、防犯と交通安全ともに地域の意識向上に努めてほしい」と訴えていました。

その後、参加者はパトカーや白バイの他、青色灯装着車〔青パト〕など 33 台に乗車し、防犯パトロールや広報活動に出発しました。



◇ 青パト講習会を実施しました。

11月28日(水) 19時30分より市民センターで今年度後期の青パト(青色回転灯装備車)講習会を実施しました。(前期は7月実施済)



現在、まちづくり協議会では、壬生野小学校児童生徒の下校時の安全確保と夜間の犯罪防止のため、自主防犯活動として約 50 名の青パト委員が中心となって防犯パトロールを実施しています。

青パトは、警察署の認可を受けた者の乗車が義務付けされており、有効期間2年となっています。今年度の後期に更新する委員さん 16 名が対象となりました。



講習会には、伊賀警察署、生活安全課江西係長より防犯活動の事例紹介や自主防犯活動を通じて犯罪防止への安全・安心の地域まちづくり、そして県内、伊賀管内における犯罪の現状などが報告されました。「パトロールは、無理をせず、みんなのできる範囲(時間帯・場所)で実施するようにしましょう。」との講師の指導の言葉を最後に終了しました。

防犯・防災実行委員会

行委員会

◇ 防災の視察研修を実施しました。

12月8日(土)、防犯・防災実行委員会の事業でまちづくりの役員・委員さんら 18 名で京都市市民防災センターへの研修視察を実施しました。

京都市南区にある、この防災センターでは、災害時に不可欠な防災知識や行動を『見る』『聴く』『触れる』『感じる』ことで学ぶことができる疑似体験を主とした『市

民防災体験』を行っています。

当日は、2時間余りの体験プログラムコースを選定し、オリエンテーションを行い、その後、避難体験では、ホテル火災をリアルに再現し、普段経験できない煙の中の避難行動、消火体験では、職員の方から消火器の種類やその効果についての説明を受けた後、消火方法を実際にモニターでの火災への消火を体験し、強風体験では、風速32メートルの強風発生装置により、強風下における行動の困難性を自然災害として、地震体験では、震度4~7程度の横揺れを体験し、地震発生時の心構えと日ごろの備えをそれぞれ参加した18名全員が擬似体験を行いました。そのあと、ハイビジョン映像システムにより、京都の地震をはじめとした各種災害の歴史や恐ろしさ等について紹介した映像体験ビデオを見て研修を終えました。

いつ、どこで発生するかわからない災害に備える心構えとして、一人ひとりが地震や水害等に関する知識を高め、被害を少しでも軽減できるように平常時から訓練などの各種の対策を進め、また、災害発生時には、各地域や組織などさまざまなかたちで、相互に助け合えるつながりを築いておくことが、とても大切です。

地域の皆様には、それぞれに防災に関する知識を家庭で広めていただき、また、当まちづくり協議会におきましても防災の取組をさらに推進していきたいと考えています。



◇ 寄せ植え教室の開催

12月9日〔日〕、教育・文化実行委員会主催の寄せ植え教室を開催したところ、壬生野地域内外から多くの皆さんが参加してくれました。

講師は、昨年と同じNHKやケーブルテレビでもご活躍の園芸研究家 奥 隆善氏にお願いし、川東地区にある先生の花苗ハウスで教えていただきました。

まず、はじめに鉢の選び方や土の入れ方、植物を選ぶコツ、鉢の管理などの寄せ植えの極意や葉ぼたんのルーツといった専門的なお話があり、その後、植えるのが難しいほどぎっしりと詰まった寄せ植えを楽しみました。先生は、「今回は色々な表情が長く楽しめる様に考えてみました。

今はクリスマスの飾りですが、お正月、節分、ひな祭りなど季節の飾りに付け替えて、ずっと楽しんでください。」と寄せ植えの醍醐味を伝えてくれました。葉の大きさや少しの色の違いで、それぞれ可愛くステキに出来上がり、この寄せ植



心なしか皆さんの顔が輝いて見えました。

人とのふれあいを大切にされているという先生ならではの寄せ植え教室は、とても和やかで心やすらぐよいひとときになりました。

◇ お知らせ（世界遺産：熊野古道の散策！）

健康・福祉実行委員会では、下記の日程で熊野古道の散策を予定しています。ついでには、各区回覧で参加募集（ご案内）をしましたが、12月末で予定人数に達しましたので締め切りとさせていただきます。

記

- 1、実施予定日：平成25年3月2日〔土〕
- 2、参加予定数：30名程度
- 3、予定コース：紀北町あたりの4～6キロメートル程度
- 4、貸切りバス：最寄の出発地点へ、散策終了後は到着地点へ

◇健康便り ～ 06年以来の大流行 遺伝子変異で新種も ～ 中日新聞より抜粋

ノロウイルスは遺伝子の種類が多く、免疫ができて別タイプのものに再び感染する場合がある。この冬が2006年以来の大流行となった要因として、ウイルスの遺伝子に変異した新種の出現も挙げられる。国立感染症研究所によると、新種ウイルスは今年1月に採取した北海道や大阪市の患者の検体から発見。6年前の大流行を引き起こしたウイルスの遺伝子に変異したと見られ、同じ型の遺伝子のウイルスが新潟、東京、島根、大分、沖縄の各都県などで11月中旬までに見つかった。



感染予防の方法

- | | |
|----------|--|
| 食品は加熱調理 | 85度以上で1分間以上、加熱すると感染力が低下する。 |
| 塩素系の消毒液を | 嘔吐物や汚物の処理には台所用漂白剤など次亜塩素酸ナトリウムを含む消毒液が有効。アルコールは効かない。 |
| 手洗いは徹底的に | 手をもみながら爪の中まで洗うとウイルス量が減る。蛇口を直接触らず、タオルも共用しない。 |
| 汚物の悲惨に注意 | 床の嘔吐物やトイレの便からは微粒子が飛散している。口からの感染を防ぎ、十分換気する。 |

編集後記

先月号の広報誌(87号)で印刷が薄く、大変読みづらい紙面になってしまいましたこと、お詫び申し上げます。今後共、よろしく願いいたします。

ご意見・お問い合わせ・投稿は、下記までお寄せ下さい。

壬生野地域まちづくり協議会 広聴・広報実行委員会 TEL：45 - 8900

